

（資料5）第六次藤井寺市総合計画＜令和6年度＞点検評価・審議会意見まとめ

【施策別の内部点検・評価に対する意見】

①地域の人や資源を活かし、にぎわいと活力を創出する

施策名	1－2 観光の振興	市の考え方
ご意見	<p>様々なプロモーションをされていることを評価しますが、PRとともに、本市にお金を落とすしくみをどう構築していくかの施策が必要であるように思います。観光拠点がシュラホールにできましたが、そこに至る過程で、駅の空きスペースにボランティアな窓口を設ける等して、回遊ルートを提案するとか、古墳周辺の公有財産をP-PFI的に活用するとかいった取り組みも実施し得るように思います。市民の日常生活に組み込むことで、シビックプライドの醸成にも繋がっていくものと思います。一方で、オーバーツーリズムに対する対策の検討も必要かと思えます。</p>	<p>藤井寺駅周辺からアイセルシュラホールまでの回遊ルートを活性化するため、商店街や葛井寺、辛國神社などを含めた情報発信を行い、パンフレットや藤井寺駅にサイネージやMAPを配置するなど観光動線の整備に努めています。</p> <p>また、今後は、アイセルシュラホールの観光拠点化を地域活性化の新たな契機として、行政や市民だけでなく大学や企業とも連携し、地域にお金を循環させる施策を模索していきます。</p> <p>なお、オーバーツーリズムについては、現状では大きな課題とまでは認識していないため、今後、課題が顕在化した場合には、関係部署と連携し、対策を検討していきたいと考えています。</p> <p>あわせて、古墳周辺のP-PFIとしての活用についてですが、本市に所在する古墳の大半は、世界遺産の構成資産として厳格に保護されています。そのため、史跡や古墳周辺の活用については、府や国、さらには国際機関との協議が必要となります。また、高度な専門的知識とノウハウが求められることから、時間と費用がかかる可能性があり、慎重に検討する必要があると認識しています。</p> <p>なお、津堂城山古墳近隣のふじみ緑地については、まとまった公有残地があり、民間事業者を公募したところ、喫茶事業者から応募があり、来年の開業に向け、土地整備を行っております。今後も民間活力の活用に努めてまいります。</p>

施策名	1－3 商工業の振興	市の考え方
ご意見	<p>実際の成果の部分が数字として見えにくいように思いました。支援により創業が何件あったのか、法人税収は増えたのか、商品券による売上効果はどれほどだったのか等、数字をベースにして次の政策展開をしていく必要がある部分かと思えます。また、創業があったのであればどのような創業があったのかのPR（やりたい人の掘り起こし）等の展開もされるべきかと思えます。</p>	<p>成果の可視化は重要な課題であると認識しております。具体的な数字を提示し、施策の効果を明確化することは、次の政策展開の基盤を築く上でも非常に重要であるため、利用者へのアンケート等を通じて状況の把握に努めてまいりたいと考えております。</p> <p>また、商工会等と連携し、「ふじいでらスタートアップ支援事業連携会議」を組織して実施している各種創業支援事業のさらなる展開とPRに力を入れていくことで、創業者のさらなる掘り起こしにもつなげていきたいと、考えております。</p>

施策名	1 - 4 協働・共創の推進	市の考え方
ご意見	<p>市民活動サポート業務について、相談件数が減っているとのことだが、市民活動団体が活動を始める時には、活動拠点を必要としていることが多いのではないか。福祉会館での利用希望を切り口に、団体の立ち上げ運営や規約に関する相談もあり、シュラホール、市民会館、福祉会館といった公共施設の利用希望の相談があった際の連携ができれば良いと感じた。</p>	<p>市民の皆さんが集い、簡単な打ち合わせ等を気軽に利用できる場所として、市役所1階にて情報交流ひろば「ふらっと」を整備しております。その他活動拠点についての問い合わせがあった場合には、活動の内容や趣旨、目的を丁寧に聞き取りした上で、適切な公共施設を情報提供するほか、同様の活動を行っている他団体の情報についても把握している範囲にはなりますが、提供を行ってまいります。</p> <p>公共施設の利用にあたっては、各施設で団体登録が必要となる場合が多く、また団体の利用目的が施設の設置目的に合致していることが求められます。そのため、各施設所管課の窓口で利用に関する相談があった際には、まず利用目的を確認したうえで、利用が可能と見込まれる施設について情報提供を行っています。</p>
	<p>こども食堂への支援は、情報のみならず、多様な支援がされていると思うが、さらに積極的に企業などがこども食堂へ物資が提供できるようなしくみが構築されるとよいと考えられる。</p>	<p>本市のこども食堂は、各団体とも独自のネットワークをもち、自分たちの可能な範囲の中で、自立して運営できる体制がある程度確立されている状況です。</p> <p>また、地元の農家の方、大阪府や中間支援団体からの食材提供、フードバンクなど、市から提供する情報なども活用いただき、独自のネットワークを通じて食材提供を受けておられます。</p> <p>ご提案の取組も含め、引き続き、それぞれの団体が主体的かつ持続的に運営していただくことを基本に考え、適宜各団体との意見交換の場を設けながら、それぞれの実情に応じた支援を行ってまいります。</p>
	<p>市民活動を冊子で広報しているということですが、情報過多な時代において、色々な冊子に目を向けるのは困難です。ターゲットが同じ媒体は統一していく方が効果的効率的な事務遂行ができるのではないかと思います（例えば広報での不定期な1コーナーにするとか）。策定審議会でも「縦割」の問題点の指摘がありました。部署別ではなく、ターゲット別（全市民なのか、一部市民なのか）で媒体の使い方を検討してはいかがでしょうか。</p>	<p>現状、市においては、子育て世代向けの支援情報をまとめた「子育てマップ藤井寺」や親族をなくされた方の手続きをまとめた「おくやみガイドブック」など、事業所管にかかわらず、市や関係機関の取り組みを網羅的にまとめ、ターゲット別の冊子を作成し配布しております。</p> <p>ご指摘のありました、市民活動紹介冊子につきましては、市内の市民公益活動団体の周知及び市民公益活動をこれから始めてみようと思う方に向け、市内にどのような団体があるのか、わかりやすく情報を取りまとめて冊子としていることから、ご提案の広報紙への掲載については、市民公益活動団体の支援を第一に検討してまいります。</p>

②子どもたちが輝き、生涯にわたり学び・活動する

施策名	2 - 2 学校教育の充実	市の考え方
ご意見	トイレの洋式化が進まなかったとの評価ですが、その要因は何かをはっきりさせた上で次の打ち手があるべきかと思います。	<p>学校施設の半数が建築後50年以上経過し老朽化が進んでいること、将来的には児童生徒数の減少が見込まれること等から、「行革アクションプラン2024」において、「小中学校の適正な施設数の見直し」を検討項目としており、令和6年度は改修箇所や個数、着手時期などを整理した改修計画を策定し、工事着手は見送りました。</p> <p>なお、令和7年度については、小学校4校で各8箇所、合計32カ所の便座を洋式化しております。</p>

施策名	2 - 4 生涯学習の推進	市の考え方
ご意見	この項目だけでなく、公民館、自治会館、地域福祉会館、体育館など、ほとんど利用したことが無い様々な施設があることを初めて知りました。Web予約を可能にする等、利用促進を進めていることも評価できますが、現状は、恐らく縦割で、その場所を使いたい、という切り口で施設を予約し利用する流れだと思いますが、こういう使い方をしたい、という切り口で情報を一元化し、それならばこの場所やこの場所が予約、利用できます、という流れを構築できると良いと思います。また、その結果の重複機能については統合（場合によっては近隣市との相互利用によるものも含め）を検討し効率化し、創業支援や自習室ほか居場所づくりの開放スペースにする等、新たな用途に活用する等し、魅力の向上を図る方法もあるかと思っています。	<p>現状では各施設の利用に団体登録等が必要であり、また利用目的が施設の設置目的に合致していることが求められます。そのため、幅広い市民の方へ向けての施設情報の一元化や一括予約方法の整備などは、制度上すぐに対応することは困難であると考えております。</p> <p>そのため、各施設所管課において、利用が難しいと判断する場合には、利用目的に合致しそうな他の施設の情報提供を行うよう努めています。</p> <p>なお、体育館、市民総合会館、生涯学習センターについては、市公式LINEからの予約や登録を可能とするなど、市民の利便性向上に努めています。</p>

③誰もが健やかに暮らし、ともに支え合う

施策名	3 - 4 高齢者への支援	市の考え方
ご意見	<p>【取組方針1】 地域包括ケアシステムの深化</p> <p>高齢者が自主的に集まる団体として、老人クラブにも期待をしたい。</p>	<p>老人クラブについては、高齢者の生きがいがづくり、仲間づくりをはじめ、会員の教養の向上や社会奉仕活動を通じて健康増進を図るなど、地域社会との交流・活性化を図る事業を実施するための費用に対し補助を行うなど、引き続き高齢者が安心して暮らし続けることができるよう支援していきます。</p>
	<p>【取組方針2】 高齢者の自己決定を支える体制づくりの推進</p> <p>民生委員や福祉委員をはじめとする地域の見守り体制が構築されているとのことで、行政だけでは担えない、市民による組織は重要であり、引き続きの後方支援が望まれる。</p>	<p>福祉委員に対する後方支援としては、独居高齢者等が地域で孤立することなく、安心して生活ができる地域づくりのための見守りや訪問活動に必要な情報提供を行い、そこで支援が必要な方が発見された場合には関係機関と連携協力し支援を行っています。</p> <p>民生委員に対する後方支援としては、民生委員児童委員協議会に対して補助金を交付し、民生委員が円滑に活動できるよう研修を実施しています。併せて、民生委員の活動内容ややりがいを周知し、認知度向上及びなり手不足の解消に取り組んでいます。</p> <p>引き続き、地域の見守り体制を維持していけるよう各団体に対し必要な支援を行っています。</p>

【全体的な事項に対する意見】

		市の考え方
	<p>令和6年度の内部点検・評価の結果を見ると、第六次総合計画に位置付けられた各施策について、おおむね計画どおり、もしくはそれ以上に進捗している分野が多く、世界遺産や歴史資産を核とした魅力発信、子育て・教育環境の充実、健康・福祉・防災分野の基盤強化、さらにはDXや行財政改革による持続可能な行財政運営の取組など、総合計画の目指す方向性に沿った成果が着実にあらわれていると思います。</p> <p>一方で、多くの施策で「概ね計画どおりだが一部未達・未実施」との評価も散見されており、KPIが目標値に届いていない分野や、人口減少・高齢化、物価高騰、人材不足など外部環境の変化が影響している分野については、今後数年の重点的なフォローと施策の優先順位付けが必要になると思います。</p>	<p>第六次総合計画については、藤井寺市の目指す将来像の実現に向け、「歴史文化の活用」「住宅都市としての都市イメージ向上」及び「未来への投資を通じた成長の支援」を施策の方向性と定めており、これまで実施してきた取組を単純に継続するのではなく、各施策の柱ごとに重点施策を明確化しており、適宜計画期間中に施策推進のウェイトを調整し、メリハリをつけて施策を推進していくこととしております。</p> <p>今後とも各施策における新たな課題については、解決に向けた調整を行いながら、施策の優先順位の明確化に努めるとともに、持続可能な行政運営の実現を目指します。</p>
<p>ご意見</p>	<p>概ね適切に実施されている。</p> <p>善意によって支えられているこども食堂のサポートをはじめとして、令和7年度においては、把握した様々な課題等を解決できるように、今後の支援について検討した後は、ふるさと納税制度、クラウドファンディングなどからの資金なども活用し、実際に多様に対応できるよう関係各所に働きかけ、さらに多様な支援ができるとうい。</p> <p>さらに、職員の方々のキャリア開発、能力開発に関わる施策などにも、さらなる積極的取り組みをすることにより、行政運営がより良く実行できると良いと思われる。</p>	<p>本市のこども食堂は、各団体とも独自のネットワークをもち、自分たちの可能な範囲の中で、自立して運営できる体制がある程度確立されている状況です。</p> <p>ご提案の取組も含め、引き続き、それぞれの団体が主体的かつ持続的に運営していただくことを基本に考え、適宜各団体との意見交換の場を設けながら、それぞれの実情に応じた支援を行ってまいります。</p> <p>能力開発については、人事評価制度を最大限活用していきたいと考えており、職員の職務遂行能力の向上に繋がるような制度構築に向けて、現在、人事評価制度の見直しを行っています。また、キャリア形成支援については、職員一人ひとりが自らの「働き方」や「キャリア」について考える機会を付与することが必要とされるため、研修や上司面談等の取組実施を検討していきます。</p>
	<p>転入の増加、空家リフォーム助成の増加等が示しているように思いますが、都心部の住宅価格の高騰に伴い、値ごろ感のある本市の住宅需要も活発化しだしているということかと思えます。いずれはこの値ごろ感も落ち着きをみることを想定すると、早い段階でこの追い風を捉えて、積極的なシティプロモーションと、そのアウトプット先となる商業振興施策や住宅施策に取り組むチャンスにあるように思えます。</p>	<p>全国的に空き家の増加によって地域のにぎわいが低下している例が見受けられる中、本市でも空き家に関する相談が多く寄せられております。そのため、空き家リフォーム補助制度の運用や不動産相談会の開催を通じて、空き家の抑制と移住・定住の促進に取り組み、良好な住環境の整備に努めております。加えて、市全体の持続的な経済成長を見据え、商業振興施策を効果的に展開していくことが重要であると考えております。さらに、市HPや広報紙、市公式YouTubeチャンネル、市公式LINEや各種SNSを活用した情報発信を強化し、庁内ではシティセールスリーダーを中心とした研修を実施することで、魅力あるまちづくりと積極的なシティプロモーションに努めてまいります。</p>
	<p>事業費の考え方について疑問を感じました。例えば、保育無償化はコストはかかっていないかもしれませんが、財源の確保は必要です。また、精緻に行うのは困難とは思いますが、内部リソースで実施しているものは事業費として出てこないのも、施策に対しての費用対効果は見えづらいと感じました。</p>	<p>事業費については、事業費として予算計上された金額について記載しており、正規職員の人件費や徴収金額の減少内容に関しては明記しておりません。</p> <p>ご指摘の課題については認識しておりますことから、今後の記載方法に関しては、可能な限り費用対効果が見えやすくなるように検討いたします。</p>
	<p>全体として、様々な施策をよくやっている、ということだと思います。一方で、目標が高かったということもあるのかもしれませんが、KPIに届いていない施策も多く、交流人口も含めた人口減少の影響に直面しているところかと思えます。策定審議会でも「金太郎飴のようなものではなく」という意見がありましたが、本市の特徴を打ち出しやすいものと、その受け皿（売り上げが増える、働く場所、住む場所がある）に重点配分していくことで、他市との差別化と経済循環を生むことを期待したいと思います。</p>	<p>第六次総合計画については、藤井寺市の目指す将来像の実現に向け、「歴史文化の活用」「住宅都市としての都市イメージ向上」及び「未来への投資を通じた成長の支援」を施策の方向性と定めており、これまで実施してきた取組を単純に継続するのではなく、施策推進のウェイトを調整し施策を推進していくこととしています。</p> <p>今後とも、本市の特徴を活かしたメリハリのある施策展開を図ることで、持続可能な行政運営の実現を目指します。</p>